鮫川（北海道）

吉川奈穂

私が生まれ育った町は、北海道函館市。津軽海峡に面した港町として知られ、函館山から眺める夜景は、世界三大夜景の１つとして有名であり、その他の有名な観光名所として五稜郭などが挙げられる。川もいくつかあり、その中でも実家のすぐ裏手にある「鮫川」は私にとって思い出の沢山詰まったものである。それは私にとって海よりも優しく、夜景よりも輝いている。市の中心部より東北にいくと標高 130 メートルの洪積世の段丘がある。ここが鮫川の源である。そこから南西に約２キロメートル流下すると市街地にいきつく。全長 4,974 メートルの二級河川である。上には２つの町を結ぶ橋がかかっており、またその橋から少し離れたところには車道があり毎日多くの車やバスが鮫川の上を横切る。鮫川で自慢できることは、水が澄んでいることと、頻繁に鴨の集団がぷかぷか泳いでいる点だと思う。この冬休みに帰省した際、久々に川の周りを散歩してみたが、私が上京する前と変わっておらず、水が綺麗に輝き、鴨にも遭遇できた。私は昔を思い出し、懐かしい気分に浸っていた。川の側で肌に感じる風は、冷たいながらもなんだか気持ちが良かった。ただ１つ残念だったのが、ところどころにゴミがあったことだ。故意に誰かが捨てたのか、風で飛んできたのかは不明だが、綺麗な川の水に、色鮮やかな姿をしたカモ、この美しい風景を眺めている時に視野にゴミが入ってくるのがなんとも悲しかった。

はじめにも書いたように、鮫川は私の実家のすぐ裏にある。なので鮫川との思い出は本当に沢山ある。そして１つ１つの思い出の中で鮫川は違った「顔」を持っていたように思える。小さい頃は祖母によく散歩に連れていってもらったが、その度に鮫川の近くを通った。春の昼下がり、鮫川は太陽の光を反射してとても綺麗に輝いていたのを覚えている。その時の鮫川は祖母と私を包むように優しく微笑んでいたように思う。

小学校に上がりしばらく経った時、鮫川が洪水になった時に水を一時的に貯めておく遊水地が川のすぐ近くに建設された。「せせらぎ公園」という名のこの遊水地は、普段は公園として

使用されている。このせせらぎ公園が完成したばかりの頃、私が通学していた小学校の周りには公園はいくつもあったが、水の流れる公園はなかったため、せせらぎ公園を訪れる顔ぶれは、同じ小学校に通う見慣れた者が大半だった。公園内の池や小さなダムの水も透き通って綺麗で、みんな夢中になって友達と大人数で水遊びをした。プール学習以外で水浸しになったのは初めてだった。夏の暑い日差しの中、お互いに水を掛け合ったのがとても気持ち良かった。鮫川はせせらぎ公園のすぐ横を流れているため、公園を出て川に足をつける者も多かった。この時、鮫川は子供たちと共にはしゃぎ、楽しそうな表情をしていたに違いない。

小学校に通う時、毎日橋を渡って鮫川の上を通った。スイミングスクールに通う時には鮫川の上の車道を渡っていた。それらの往復の道で「行ってらっしゃい」、「おかえり」と言ってきれているようであったし、近くの下り坂を自転車で猛スピードで走り降りた時には「危ないよ」と警告してくれたように感じる。プールで泳いだ後、暗い道を歩いている時にみた、鮫川の水面に反射した黄色い月が忘れられない。風邪を切って自転車をこいでいる時にちらりと視界に入った川の光の輝きを今でも覚えている。母親と一緒にスーパーへ買い物へ行く際にも鮫川の上をよく通った。買ってもらったお気に入りのカードを持ち鮫川の上を渡った。と、一瞬手のひらを開いた瞬間に風が吹き、カードは見事に鮫川の上に着地した。とてもショックだったが今思えば鮫川なのだから別に良いだろうという気がしないでもない。こうして思い出を連ねてみると、鮫川はその時その時で実に異なった表情を持っていたことがわかった。それほどまでに私と鮫川は共に人生を歩んできたのだと思う。

私と鮫川との思い出を連ねてきたが、この鮫川も時にはとんでもないことを引き起こす。今から２-30 年前に、台風の影響により氾濫を起したのである。それは実家から道路を隔てて向こう側の家に住む人たちがボートで市民会館へ非難した程だそうだ。土地が川の高さよりも低いため、床下浸水などの大きな被害を被った民家もあった。八百屋が私の実家の近所に野菜を置いていたらしいが、その野菜も洪水により流されたらしい。この時、私の父親は職場から帰宅途中で、靴を脱ぎ素足で帰ってきたという。これも前述したのとは異なる鮫川のもう１つの「顔」であろう。

鮫川についてインターネットで検索してみたところ、福島県に鮫川村という村があるらしくそちらのヒット数の方が圧倒的に多いため、なかなかこれというものが見つからず苦戦したが、様々なサイトを見て集めた情報の中で、「鮫川」という名の由来（推測であるが）が掲載されていたのが大変興味深かった。私は物心着いた時からなぜ「鮫」川なのか疑問を抱いていたのである。そのウェブサイトは、鮫川の語源はアイヌ語にあるのではないかと推測している。アイヌ語で和人を意味する「シャモ」、「シャム」といった音が「サメ」と変化したのではないかという結論に至っている。

私が幼い時から、いや生まれた時から時を共にしてきた鮫川。昔と変わらぬ姿でいるので安心している。これは私が鮫川に慣れ親しんでいるためかもしれないが、もし鮫川が例えば水質汚濁などで今までと全く別の姿になってしまったら、私はとても寂しく思う。私はゴミを目にして、このまま増え続ければ鮫川を鮫川とは全く別のものにしてしまい兼ねないという不安に駆られた。暑い日も寒い日もいつもキラキラと輝いている鮫川。そこに居座っている廃棄物。そこからどんどん汚染が広がっていくのではないかという不吉な予感がしてくる。幸い現時点ではゴミはほとんど見受けられなかった（私が帰省していた時点では）。これは鮫川が愛され

ている証拠なのだと思う。私はこれからも昔と変わらず、輝き、愛され続ける鮫川であって欲しいと思う。

参考文献

「函館松倉川のホームページへようこそ！」第２章　流域と河川の状況 2009 年１月８日ログイン, Last Update 2004 April 26

http://www.pref.hokkaido.jp/kensetu/kn-hakdg/contents/chisui/matu_hp/soan/soan-sho-2-1.htm

「Mapion 電話帳」 2009 年１月８日ログイン

http://www.mapion.co.jp/phonebook/M07001/01202/